ふじみ野市の野洋像は…

10年後のふじみ野市はどうあるべきか、新しいまちづくりを進めるための「総合 振興計画基本構想」の審議が、3日間にわたって行なわれました。 賛成多数で可決。 策定の目的を定めた第1章から最終章の第8章までの主な審議内容を紹介します。



部分で「『協働』は行政が責任

によるまちづくりが必要」 が互いに信頼し(中略)『協働』

0)

放棄することにつながる」

指摘がある一方で、

『協働』と まちづく

いう思いなくして、

りは進まない」という意見も

他の章の項目の中でも、

冉三議論となりました。

民・各種団体・事業者・行政

の地域特性の課題を考察し国的課題を踏まえた上で、市

た」と説明がありました。

また、

言葉の使い方で、

根拠について質疑があり、

全

国的にも共通した内容であ

これらの課題を選定した

画策定に反映させたのか、この結果をどのように 市民の意向がつかめているの も低い項目もあり、 四一%)の結果、 000人、

るいは基本構想に明記する必 確に明記されているのか、

あ

要があるのかなどの議論もあ

平成十八年に実施

た市民意識調査

この結果をどのように計 一方では満足度も重要度 の重要度が一位でした 「医療体制の

① 人口減少、少子高齢社会への ② 人づくり・地域づくりの充 ② 環境への配慮

の充実・強化

の」との答弁がありました。

市の憲法ともいえるも

「法律上の体系からい

画の位置づけにつ

第2章

まちのあゆみと概要

第 3 章

ふじみ野市の課題

策定の目的

町の歴史的背景や特色が正

活発な議論を展開

新しいまちづくりのための 基本構想策



います。 六つのキーワードが示されてれが二つの言葉でつながり、 活力の三つに分かれ、 ドが示されて

野」とし、 して愛着のあるまち 今後十年間で進めるま これを達成するた ふじみ

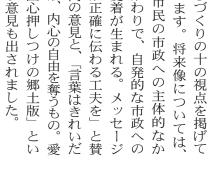
第 6 章

施策の大綱

将来像は「自信と誇り

う意見も出されまし 国心押しつけの郷土版_ 同の意見と、 が正確に伝わる工夫を」 愛着が生まれる。 「市民の市政への主体的なか 将来像については、 メッセー





第 7 章 第8章 将来人口12万人 土地利用構想

うこと。 うサービスを進めるに 来人口推計は べきとの指摘がありまし い」という考え方を示す 人口を何万人にした 行政として、 「計画的に行な こうい

図が示されました。 地の九つに色分けされた 農業系・環境共生生産・緑 住宅系・商業系・工業系・ ツ・産業系土地利用促進・ 公共サ ービス・スポ





④ 地域社会·市民生活

③ 教育・文化・スポーツ

記されています。「スリム」を

づいて地域経済を行なう」と 決定・自己責任』の原則に基 分権時代にふさわしい 『自己

⑥ 都市基盤·生活基盤

以上の六つの分野に分

はない。

住民自治と福祉の向

上を第一にすべき」

する意見と、

併の効果を出すには当然」

最初に掲げたことに対し、

内容を掲げてい

①の行財政運営の分野

②保健・福祉・医療

指針として

行財政運営

に市が行なう各種施策の

のまちづくり」として、

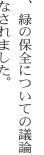
「地方

「スリムで効率的な協働

将来像を実現するため

た。 土地利用構想について

がなされました。



Ł

ふじみ野市議会だより第8号〔2007年9月定例会〕

ふじみ野市議会だより第8号 (H19.11.1発行)

少子高齢社会への対応